

「使える」ハイウェイ推進会議

ハイウェイ「機能」の新構築にむけて

21Cの社会資本整備の総合グランドデザインを

京都経済同友会常任幹事

京南倉庫株式会社

上村 多恵子

1. 「使える」とは

料金、技術、マネジメントに加えて「機能」としての役割がその時代にふさわしいのか？の検証が必要

誰にとって「使える」のかユーザーを分けて考えることが大切である

- ・ 物の移動のための道路利用
- ・ 人の移動のための道路利用

料金収入の大きなシェアを占める物流から考えると

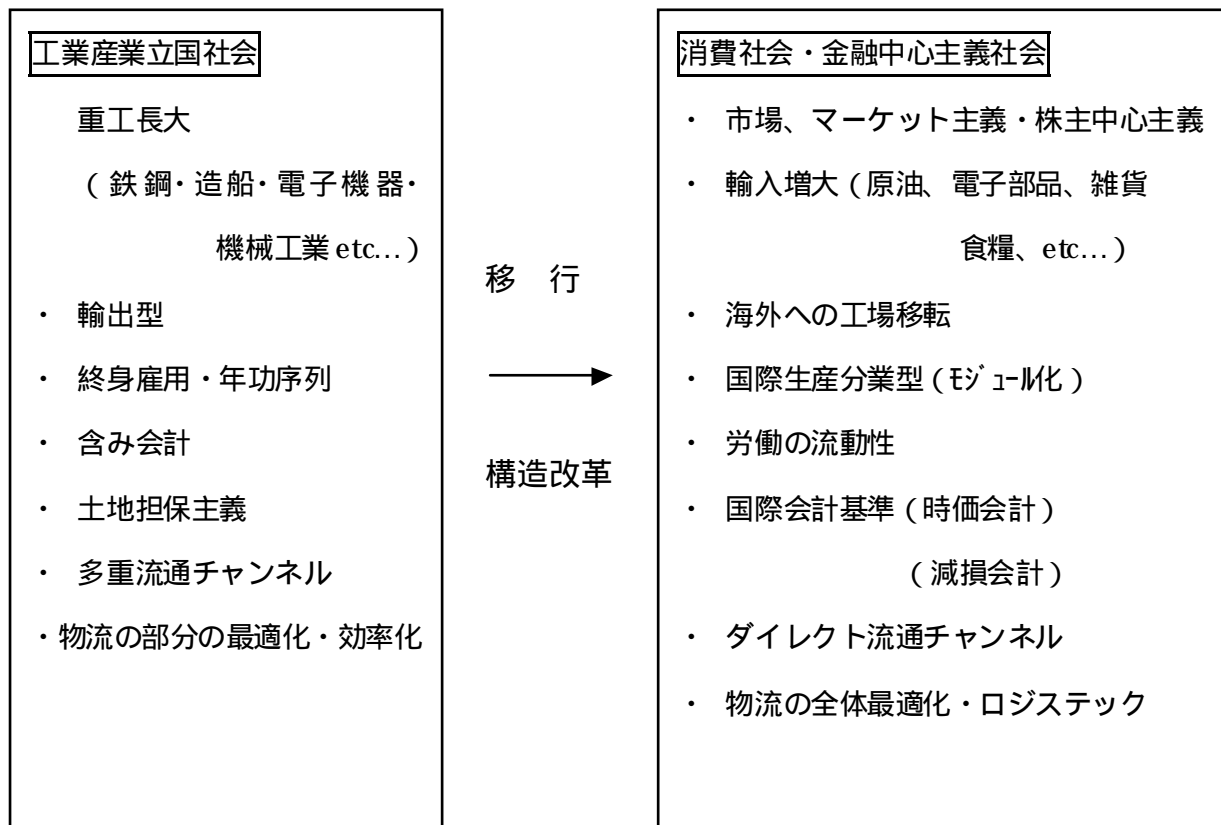
今の道路整備が、グローバル化の中で国際的な物流ロジステックの、「全体最適化」が求められる時代にふさわしい機能を果しているか？の検証が必要

旧産業構造（旧・旧ミ-体制）時代に計画されたものであり、「使えない」「使いにくい」機能のものであるという認識が必要

2. 物流を取り巻く産業構造の変化

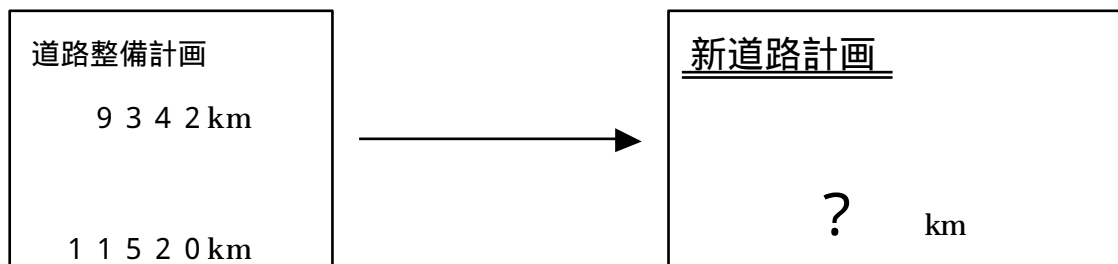
旧産業構造（旧・エコノミー体制）

新産業構造（ニューエコノミー体制）



長期的視野でゆっくり投資と回収、
人材教育が出来る
活力が失われやすい

短期的・スポット・スピード
せわしないが、おもしろい。
活力がある



3 . ロジステック革命

- ・ロジステック - 兵站
- ・SCM サプライチェーン・マネジメント
調達、生産、販売、消費、リサイクルを一気通貫で効率的に
システム化 全体最適化 グローバルロジステックシステムの
構築の必要性
- 効率とは
 - ・時間・リードタイム
 - ・トータルコスト
- ・港・空港・道路整備と情報技術の発達がロジステック戦略のカギである

ところが

港・空港に陸上げされても、労力・時間・コストがかかりすぎている

- ・港・空港に高速道路・鉄道の結節点が悪く、又直接に乗り入れができない
- ・国際標準のコンテナ 40 フィートコンテナや、背高コンテナに対応できない道路がある（地上3.8mの車輛制限では通れないため迂回している）
- ・大型コンテナのトラック輸送が出来ない道路が多い
- ・その他阻むものが多い

4 . ハイウェイの新「機能」構築のために

- ・新産業構造（コ-エコミ-体制）にふさわしい社会資本整備のあり方を再構築する必要性がある
- ・産業・外交（WTO・FTA）・税制（関税）農業政策をふまえた今後のあり方を予測
ex、2030年の日本の姿の予測
足腰としての社会資本整備のありかた
空港、港、道路、鉄道のモーダルミックス

(一体運営)による全体の最適化構造のインフラ整備が必要である

モーダルオーソリティ局の必要性

- ・産業経済的観点より、より効果の高いものから優先順位をつけて、重点的に整備をしてゆく必要がある

5 . 道路における公益とは

渋滞の解消 沿道環境の改善 地域活力の確保

の前に、公益を考えると、まず「国家機能」とは何かを考えてみたい。

国家の存続 国の富の確保拡大 国民生活の保障 教育や国民文化の伝承（第9回行政改革会議の資料より）

とあります。 国家の存続 国の富の確保拡大 国民生活の保障 という観点より、道路における公益とは

『来るべき、いや来たすべき時代、新時代にふさわしい社会資本整備のあり方としての道路を計画し、それを建設し、保有することが公益になっている。』

と、自信を持って構築してゆくことが必要である。

この上に立ち国家社会資本となり、始めて「国民的共有財産」としての価値があるものとなる。

6. より「使いやすく」するために（参考）

高速道路 S A・P A・I C に物流ハブ拠点を設置

これにより広域物流車輛が高速道路を下車する必要がなくなり広域基幹物流の効率化が可能となる

- ・ 物流コストとの抑制
- ・ 時間短縮が可能
- ・ 積載効率が高まるので一般道を利用しなくてもコストが見合う可能性が高まる
- ・ ドライバーの体力的負担の軽減により事故の抑制を図る

物流センター例

- 、 広域地域積替型
 - 、 広域地域ハブ拠点型
 - 、 広域広域積替型
 - 、 広域広域仕分積替型
 - 、 D C（ディストリビューション・センター）型
- 上記を立地条件により組み合わせる

料金をさらに下げ、国際競争力をつけ

新規の真に必要な道路を建設しやすくするためには

「償還期間 4 5 年の見直し」

道路は 3 0 0 年くらいの耐用年数があるものである。それを早く借金返済をすることが必ずしも国益ではない。

財政投融资の側から見れば

安全で利息の入る融資が減ることになる。という観点が抜け落ちている。

それも国民的遺失である。全体最適化を欠いている。

(案) 、減価償却費 + 経常利益の $1/2 \times 10$ 年

、5年平均経営利益の10倍

又は の額まで借金を減らすことを目標にする

残りを45年で返済し、残額をその時点で見直す